



2021年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月3日

上場会社名 前田工織株式会社

上場取引所 東

コード番号 7821 URL <https://www.maedakosen.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 前田 征利

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 斉藤 康雄

TEL 0776-51-3535

四半期報告書提出予定日 2021年2月3日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第1四半期の連結業績(2020年9月21日～2020年12月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	10,948	1.0	1,376	13.4	1,377	15.8	858	24.1
2020年9月期第1四半期	10,842	10.1	1,588	0.4	1,636	2.6	1,131	15.4

(注) 包括利益 2021年9月期第1四半期 857百万円 (22.4%) 2020年9月期第1四半期 1,105百万円 (20.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	27.27	26.44
2020年9月期第1四半期	35.98	34.90

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第1四半期	58,584	34,103	58.1
2020年9月期	58,468	33,561	57.3

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 34,015百万円 2020年9月期 33,473百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期		10.00		10.00	20.00
2021年9月期					
2021年9月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年9月21日～2021年9月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	21,850	0.8	2,240	20.8	2,240	25.0	1,600	20.4	50.82
通期	43,000	9.2	5,100	12.9	5,100	10.0	3,700	19.8	117.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年9月期1Q	32,260,200 株	2020年9月期	32,260,200 株
期末自己株式数	2021年9月期1Q	779,576 株	2020年9月期	779,500 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年9月期1Q	31,480,664 株	2020年9月期1Q	31,452,008 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の長期化により、国内外の経済活動が大幅に制約されており、収束の見通しが立たない状態が続いております。各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気に持ち直しの動きがみられる一方で、感染症拡大や金融資本市場の変動等の影響が国内外経済を下振れさせるリスクに注視していく必要があります。

このような状況のなか、当社グループでは、2018年の創業100周年を機に、企業メッセージ「前田工織は混ぜる会社です」を掲げております。このメッセージには、当社グループが持続的成長を遂げるための強い思いを込めており、グループの持つあらゆる経営資源を「混ぜる」ことで、成長戦略である「M&A」、「海外事業」、「人材育成」を積極的に推進するための原動力になると考えております。

M&A戦略においては、当社グループがこれまで培ってきた繊維・樹脂の加工技術に捉われず、異分野がもつ様々な技術やノウハウを「混ぜる」ことで、新製品や新技術を創出してまいります。

海外事業においては、海外の生産拠点を拡充するとともに、外国籍企業との業務提携等を通じて国内外の技術や販売ネットワークを活用することで、当社グループ製品の市場拡大を目指してまいります。

人材育成においては、当社グループ社員全員を戦力化するほか、多様な人材を採用・育成し、それらの能力・経験から生まれる人的資源を「混ぜる」ことで、イノベティブな組織風土を築いてまいります。また、当社グループでは、「従業員の健康が会社の未来を決める」との考え方のもと、すべての従業員の健康に深く関わっていくことを決意し、「健康宣言」を行っております。今後も健康で働きがいのある職場づくりに向けた様々な施策に取り組んでまいります。

このように、当社グループは、モノづくりを通じて、「私たちは 独自の知恵と技術で 持続可能な地球 そして安心・安全で豊かな社会を創るために 貢献してまいります。」という経営理念を実践し、さらに世の中から必要とされる企業となるよう努力してまいります。

当第1四半期連結累計期間の売上高は10,948百万円（前年同期比1.0%増）となりました。利益面におきましては、営業利益は1,376百万円（同13.4%減）、経常利益は1,377百万円（同15.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は858百万円（同24.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間より、セグメントを再編し、「ヒューマンインフラ事業」でありました「自動車ホイール事業」を「インダストリーインフラ事業」に、「その他の事業」でありました「ヘルスケア事業」を「ヒューマンインフラ事業」に移行いたしました。DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展や5Gをはじめとする高速通信網の整備、脱炭素社会の実現に向けた「グリーン成長戦略」等、経営環境が大きく変化し、コロナ禍をきっかけとしたテレワークやオンライン会議の定着により日本の企業文化や個人の生活環境も様変わりしております。当社グループではこれらの大変革をチャンスとして捉え、グループ内の経営資源を混ぜることで「インフラ」というフィールドにおいて、アフターコロナ時代を先取りした事業再編やM&Aなどの成長戦略により新たなマーケットを創出するとともに、当社グループのDNAである「安心、安全」な社会の実現と人々のQOL（Quality of Life）を高める施策を実践していく方針であります。今回これらの施策を実現するための一環として、報告セグメントを構成する事業会社の見直しを行い、マネジメントアプローチによる管理を一層強化することといたしました。

以下の前年同期比については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(ソーシャルインフラ事業)

当社の公共工事業業においては、盛土補強材や排水材、斜面環境製品、景観資材等の売上が順調に推移いたしました。また、営業利益は、売上増加に加え、一般管理費の削減により、前年同期を大きく上回る結果となりました。不織布関連の製品は、スパンボンド（連続長繊維不織布）の産業資材分野における需要が回復したほか、新型コロナウイルス感染症対策における医療・衛生資材の受注が好調に推移した結果、売上・利益とも前年同期を上回りました。なお、当社は、自社生産の不織布マスクにおいて、抗ウイルス加工不織布の開発に成功し、新製品「スプリトップガード」の販売を開始いたしました。本製品は、「高性能フィルター」と「抗ウイルス加工不織布」を組み合わせた高性能サージカルマスクで、表面に付着した特定のウイルスの数を2時間で99.9%減少させることが可能です。このほか、独自の不織布製法で実現したカラー不織布マスク「極 KIWAMI」の販売も開始いたしました。今後も、コロナ禍における感染症対策として、マスクやガウンをはじめとした医療・衛生資材を提供してまいります。

獣害対策製品、園芸用ハウス、農業資材を取り扱う子会社の未来のアグリ株式会社においては、新型コロナウイルス感染症等の影響により園芸用ハウスの受注が伸び悩んだため、売上は前年同期を下回る結果となりました。営業利益は、獣害対策製品においてCSF（豚熱）対策の防護柵等の受注が堅調に推移したほか、運賃や旅費等のコスト削減により、前年同期を上回る結果となりました。また、天幕や帆布生地製品を取り扱う子会社の未来テクノ株式会社では、防衛省向け製品や海洋土木製品の受注が伸び悩んだ一方で、災害避難所用間仕切り、医療用ガウン等の自社オリジナル製品の拡販による採算改善や販管費の削減効果により、売上・利益とも前年同期を上回りました。

当事業の売上高は7,873百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は1,837百万円（同31.1%増）となり、売上・利益とも前年同期を上回る結果となりました。

(インダストリーインフラ事業)

インダストリーインフラ事業では、精密機器製造用ワイピングクロス、衣料・各種産業資材用の丸編製品を製造・加工・販売する子会社の未来コーセン株式会社において、半導体向け製品の需要が回復傾向にあるものの受託先企業の在庫調整が続いたほか、新型コロナウイルス感染症の影響により衣料向け受託製品や医薬品関連用途の製品が低迷した結果、売上・利益とも前年同期を下回りました。

アルミ鍛造ホイールを製造・販売する子会社のBBSジャパン株式会社においては、国内の自動車メーカー向けOEM供給やアフター市場向け製品が好調に推移したものの、同社のドイツ子会社BBS Motorsport GmbHにおいて、OEM採用車種の入替え調整により業績が低迷した結果、売上は前年同期を下回る結果となりました。営業利益は、新規設備や新工場の本格稼働に伴う減価償却費の増加により、前年同期を大幅に下回る結果となりました。

当事業の売上高は3,075百万円（前年同期比12.8%減）、営業損失は93百万円（前年同期は営業利益495百万円）となりました。なお、当第1四半期連結会計期間より、「ヒューマンインフラ事業」でありました「自動車ホイール事業」を「インダストリーインフラ事業」に移行しております。

(ヒューマンインフラ事業)

ヒューマンインフラ事業では、子会社のMDKメディカル株式会社が医療機器の治験にかかる費用を計上したことで、営業損失は109百万円（前年同期は営業損失46百万円）となりました。なお、当第1四半期連結会計期間より、「その他の事業」でありました「ヘルスケア事業」を「ヒューマンインフラ事業」に移行しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ116百万円増加し58,584百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ390百万円増加いたしました。これは主に、流動資産のその他が877百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が1,260百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ274百万円減少いたしました。これは主に、有形固定資産が165百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ426百万円減少し24,480百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ387百万円減少いたしました。これは主に、電子記録債務が284百万円、支払手形及び買掛金が246百万円それぞれ増加したものの、未払法人税等が584百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ38百万円減少いたしました。これは主に、リース債務が83百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ542百万円増加し34,103百万円となりました。これは主に、利益剰余金が543百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年10月30日の決算短信で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年9月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,052	10,756
受取手形及び売掛金	8,051	9,312
電子記録債権	2,690	2,892
商品及び製品	3,954	3,965
仕掛品	1,398	1,453
原材料及び貯蔵品	2,182	2,217
その他	1,292	415
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	30,620	31,010
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,015	11,020
減価償却累計額	△4,834	△4,919
建物及び構築物(純額)	6,180	6,100
機械装置及び運搬具	16,251	16,401
減価償却累計額	△8,943	△9,385
機械装置及び運搬具(純額)	7,307	7,016
土地	4,056	4,058
リース資産	3,189	3,194
減価償却累計額	△147	△232
リース資産(純額)	3,041	2,962
建設仮勘定	440	702
その他	3,213	3,308
減価償却累計額	△2,574	△2,648
その他(純額)	638	659
有形固定資産合計	21,666	21,500
無形固定資産		
のれん	83	33
ソフトウェア	113	121
ソフトウェア仮勘定	5	0
商標権	652	640
技術資産	126	117
その他	484	475
無形固定資産合計	1,465	1,389
投資その他の資産		
投資有価証券	3,445	3,401
繰延税金資産	698	657
その他	572	624
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	4,716	4,684
固定資産合計	27,847	27,573
資産合計	58,468	58,584

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年9月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,092	1,339
電子記録債務	1,987	2,272
1年内償還予定の社債	28	15
1年内返済予定の長期借入金	266	136
未払金	1,508	1,486
リース債務	369	372
未払法人税等	1,030	445
賞与引当金	485	366
設備関係支払手形	65	24
その他	699	685
流動負債合計	7,532	7,144
固定負債		
新株予約権付社債	12,043	12,040
長期借入金	125	125
長期未払金	613	613
リース債務	3,297	3,213
繰延税金負債	129	159
役員退職慰労引当金	25	27
退職給付に係る負債	1,092	1,108
その他	47	47
固定負債合計	17,374	17,335
負債合計	24,906	24,480
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,472	3,472
資本剰余金	3,431	3,431
利益剰余金	28,766	29,310
自己株式	△1,925	△1,925
株主資本合計	33,745	34,289
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△123	△154
為替換算調整勘定	△148	△120
退職給付に係る調整累計額	△0	1
その他の包括利益累計額合計	△272	△273
新株予約権	87	87
純資産合計	33,561	34,103
負債純資産合計	58,468	58,584

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月21日 至 2019年12月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2020年12月20日)
売上高	10,842	10,948
売上原価	6,875	7,101
売上総利益	3,966	3,846
販売費及び一般管理費	2,378	2,470
営業利益	1,588	1,376
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	3	3
受取配当金	0	0
受取保険金	48	—
固定資産売却益	0	—
補助金収入	—	30
その他	11	13
営業外収益合計	64	47
営業外費用		
支払利息	1	18
為替差損	2	13
固定資産除却損	4	6
補修費用	7	5
その他	0	0
営業外費用合計	16	45
経常利益	1,636	1,377
税金等調整前四半期純利益	1,636	1,377
法人税、住民税及び事業税	370	434
法人税等調整額	134	84
法人税等合計	504	519
四半期純利益	1,131	858
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,131	858

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月21日 至 2019年12月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2020年12月20日)
四半期純利益	1,131	858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35	△31
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△63	28
退職給付に係る調整額	1	1
その他の包括利益合計	△26	△1
四半期包括利益	1,105	857
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,105	857

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年9月21日 至 2019年12月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソーシャル インフラ事業	インダストリー インフラ事業	ヒューマン インフラ事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	7,314	3,527	—	10,842	—	10,842
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5	0	—	5	△5	—
計	7,319	3,527	—	10,847	△5	10,842
セグメント利益又は 損失(△)	1,401	495	△46	1,850	△262	1,588

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△262百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年9月21日 至 2020年12月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソーシャル インフラ事業	インダストリー インフラ事業	ヒューマン インフラ事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	7,873	3,075	—	10,948	—	10,948
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2	29	—	31	△31	—
計	7,875	3,104	—	10,979	△31	10,948
セグメント利益又は 損失(△)	1,837	△93	△109	1,634	△258	1,376

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△258百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

当第1四半期連結会計期間より、経営管理区分の見直しを行ったことに伴い、「ヒューマンインフラ事業」でありました「自動車ホイール事業」を「インダストリーインフラ事業」に、「その他の事業」でありました「ヘルスケア事業」を「ヒューマンインフラ事業」に移行しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分で表示しております。